

メルマガ 第 17 号 吉村順三記念ギャラリーからのお知らせです。

吉村順三記念ギャラリーは

★★☆ J YMG 小さな建築展 ☆★★

第 34 回「愛知芸大・教職員住宅」展を

7 月 7 日（土）から 7 月 29 日（日）迄の

各土曜日・日曜日 午後 1 時～5 時まで開催しております。

★ 7 月 14 日（土）

と

7 月 28 日（土）

午後 3 時から★ギャラリートークを行います。

是非ご参加ください。 実行委員一同

●「愛知芸大・教職員住宅」1965～71 年●

「大空の下、自然と人と建物が融和した学園」

・吉村順三が目指した理想のキャンパス・

愛知芸大・教職員住宅はキャンパスと同時に設計建設されました。

全体配置図を見ると、第一「敷地を見て、その性格を理解する」

第二「建物の位置を決める」

第三「各部屋の配置と大きさのスタディ」

:

という吉村順三の設計姿勢が明らかです。

■配置について

大学の教職員住宅であれば、学生が訪れる機会や飲み会もあったことでしょう。都会と違った自然豊かな環境の中で師弟が心行くまで語り合い、時を過ごす場にもなる住宅を設計する。吉村順三にとってやりがいのある楽しい仕事だったことでしょう。

教職員住宅はキャンパスへの進入路から別れ、少し独立した西側山すそに配置されました。異なるタイプの住宅が付かず離れずの距離に点在し、眺望を確保する為に雁行した配置をとりながら、全ての棟が少し西向きに同じ角度で並んでいる。敷地の傾斜に対してより無理がなく、かつ東西南北を軸としたキャンパスの施設配置とは異なる向きにすることで、大学施設全体の配置にリズム

カルなバランスを与えています。

客員教授(音楽)用住宅はゲスト用として、東南方向に眺望が開け池も臨める別の位置に、教職員住宅群から切り離して配置されました。

■住宅について

住宅は、多くの場合、特定の住人の為に設計するものですが、愛芸・教職員住宅は、時には入れ替る不特定住人の為の住宅です。大きさに違いがあっても「住宅は出来ればこうでありたい」という吉村順三の設計手法をより純粋に実現できる機会となりました。小さなタイプ、やや広いタイプと様々な住宅があり、それぞれのタイプで要求される機能に最も相応しい平面計画になっています。簡素で機能的に、無駄のない広さの各部屋をレイアウトする。風の通り道、廻れる動線、水場の集約などを考慮し、玄関から始まって台所・食堂・居間に繋がり、水場・寝室・仕事部屋・階段など全てが、他には有得ない「ここ」の位置に配置されています。構造は木造・RC造(壁式・ラーメン)・混構造とさまざまです。断面図を見ると、RC造に木造浮屋根を乗せたもの、1階床のみRC造で上部は木造のもの、2階建RC造で1階床や屋根が木造と不思議なものまでいろいろです。

■現状について

キャンパス同様、厳しいローコストでの建設工事だったこの住宅群は竣工後40年以上の年月を経過しました。・・・・・・・・

(会場には、解説をまとめたパンフレットもご用意します。)

●◎ギャラリーからのお知らせ◎●

各回は奇数月(隔月)の土・日の4時間を全8回で開催いたします。

★この展覧会の内容

→ <http://www.yoshimurajunzo.jp> (Address 移行)

☆次回9月の吉村順三記念ギャラリーは、
第35回「山中湖の山荘」展を
9月1日(土)から9月23日(日)迄の
各土曜日・日曜日 午後1時～5時まで
開催 予定しております。

